

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）
分担研究年度終了報告書

非薬物的治療法および心理的支援に関する検討

研究分担者

山中 克夫 筑波大学 人間系・教授

研究要旨 前年度に引き続き、初期認知症の非薬物的介入プログラムの一つであるCognitive Stimulation Therapy (CST) について、イギリスと香港における認知症発症以降の実施体制について情報収集を行い、投稿論文としてまとめた。その結果、イギリス、香港の両地域ともに、診断直後にCSTを実施する体制が整っており、実施は主に地域の支援機関が行っているが、イギリスでは診断を行ったメモリー・クリニックでも実施されていること等が明らかにされた。また、2023年以降のCSTの実施体制・状況に関する海外研究のレビューを行ったところ、2件のシステマティックレビューが抽出された。それらの論文では、CSTの実施・評価は多くの場合が研究スタッフによって行われており、現場スタッフへの研修とスタッフ自身による実施・評価体制の構築の必要性が示唆されていること等が明らかにされた。

A. 研究目的

本研究では、抗Aβ抗体薬の適応外となった人に対する非薬物的介入のサポート体制構築のための基礎的知見を得ることを目指している。最終的にはガイドラインの作成につなげていきたい。

今年度は前年度に引き続き、初期認知症の非薬物的介入プログラムの一つであるCognitive Stimulation Therapy (CST)について、代表的な地域（イギリス、香港）の認知症発症以降の実施体制について情報収集を行うとともに、CSTの実施体制・状況に関する研究のレビューを行った。

B. 研究方法

CST プログラムの研究・普及に務めている地域代表に加え、それ以外の関係者からも、対面・オンラインによる非構造化面接やメールのやりとりを通じ、CSTの実施体制に関する情報収集を行った。また、2023年以降の関連文献について、Pubmedによるキーワード検索、文献収集を行った。

（倫理面への配慮）

実施体制に関する情報収集が目的であり、患者等の個人からデータを収集することがないため、審査の申請の対象に該当しないことを研究班で確認した。

C. 研究結果

1 国・地域レベルの実施体制：事例調査

イギリスでは、メモリー・クリニックで認知症と診断されると、CSTが14回（週に1～2回）提供される。実施はメモリー・クリニックで行われることもあるが、地域ケア機関（Community Care Trust）が一般的であることが明らかにされた。また、CST以外の非薬物療法として、回想法や機能を補う意味での狭義の認知リハビリテーション（または作業療法）も行われている。

一方、香港に関しては、前年度に報告した点である、CSTの主な担い手は作業療法士やソーシャルワーカーであることや、CSTのファシリテーターの養成講習は、Non-governmental Organization (NGO)や大学が行っていることが確認できた。

2 CSTの実施体制・状況に関するレビュー

①dementia、②cognitive stimulation therapy、③adaptation、④implementation、⑤barrier、⑥facilitatorの検索語について、(① and ②) and (③ or ④ or ⑤ or ⑥)の検索式により、2023年1月1日から2026年2月28日までに発行された文献について、Pubmedによる検索を行ったところ、129文献が抽出された。続いてタイトルと抄録により、CSTの実施体制に関する研究かどうかを精査したところ、該当する文献は2件抽出された。

そのうち、CSTに加え回想法の介護施設での実施状況についてまとめた国際的なレビューでは（Fisher et al., 2025）、CSTの実施・評価は多くの場合が研究スタッフによって行われており、現場スタッフへの研修とスタッフ自身による実施・評価体制の構築の必要性が示唆されていること等が明らかにされた。また、介護施設に限らず、CSTの実施状況について報告した国際的なレビューでは（Herrera Montoya et al., 2026）、複数の国で共通する阻害要因として、たとえばCSTの週2回の活動への参加の難しさ（付添者不足、交通手段やコストの問題）、活動中の自己開示の難しさ（個人的な話はプライバシーに関わる）、ファシリテーターと参加者の使用言語の相違等が挙げられていた。また、CSTの活動期間が限られていることから、終了後の孤独感が検討点とされていた。

レビューで明らかにされた、このような点について、今後の調査で活かしていきたい。

文献

- Fisher, E., Chick, I., Fossey, J., & Spector, A. (2025). Barriers and Facilitators to Implementing Cognitive Stimulation and Reminiscence Therapy for Dementia in Care Homes: Systematic Review. *International journal of geriatric psychiatry*, 40(7)
- Herrera Montoya, V., Santos de Carvalho, R. L., Bertrand, E., Naylor, R., Spector, A., & Mograbi, D. C. (2026). Barriers and Facilitators for the Adaptation and Implementation of Cognitive Stimulation Therapy: A Systematic Review. *Journal of geriatric psychiatry and neurology*, 8919887261416029. Advance online publication. <https://doi.org/10.1177/08919887261416029>

D. 健康危険情報

「該当なし」

E. 研究発表

1. 論文発表

山中克夫：認知リハビリテーションに基づくシームレスな心理社会的認知症支援モデル 高齢者のケアと行動科学（日本老年行動科学学会誌） 第30巻，46～52頁，2025年。

2. 学会発表（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

該当なし

F. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

該当なし

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし